

# 青年技術士懇談会

## 活動年鑑(Vol.1)

第22A期(2002年6月～2003年5月)

2003年6月

社団法人日本技術士会 調査委員会 青年技術士懇談会

# 目次

- ◆巻頭言
- ◆例会活動報告
- ◆サブグループ活動報告
- ◆修習技術者エッセイ
- ◆委員・委員補佐紹介
- ◆編集後記

## 年鑑制作スタッフ

<青年技術士懇談会 出版企画ワーキンググループ>

委員:時合健生, 桜井裕一, 秋好忍, 松浦勝博

協力員:村田雅尚, 掛川昌俊

### 平成14年度:青年技術士懇談会年鑑(Vol. 1)発刊にあたり

平成15年6月

青年技術士懇談会 委員長 時合 健生

青年技術士懇談会会員のみなさま、及び関連機関の方々には、日頃より会の運営に御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび青年技術士懇談会では、1年間の活動成果を集大成し、様々な活動の記録を行い、全国の青年技術士懇談会会員及び技術士会関連機関(部会、委員会など)への報告・紹介を行うことを目的として活動年鑑を制作することになりました。関係者のみなさまに本年鑑を御一読いただき、青年技術士懇談会の活動内容をより一層御理解いただければ幸いです。

以下に青年技術士懇談会の簡単な紹介と年鑑の概要について説明いたします。

#### 1. 青年技術士懇談会のご紹介

私共は、全国(7支部)の45才未満の技術士、約1,600名の部門を越えた若手技術者で構成される会で、調査委員会に所属しております。

若手の会員・準会員を対象とした相互研鑽や継続的なCPD教育の場を鋭意提供、並びに技術士会の事業(例会活動、特別シンポジウム活動、国際交流活動、会員増加・指導技術士の紹介、技術士会の広報、試験業務協力等)に貢献してきました。

会のスローガンは、”開かれた、会員のための、サービス活動”で関係部署・委員会と連携して活動しております。

##### (1) 平成14年度の実施体制

対外的な活動グループは7グループ、会計・出席管理・規約改訂等の内務グループは3グループの合計10グループで構成しています。スタッフは委員11名、技術士補の委員補佐9名と特定グループ活動への協力者11名の合計31名です。

##### (2) 主なグループの活動報告

国際交流、広報活動、月例会、特別シンポジウム、修習技術者、試験業務、出版・企画、組織・規約検討、会計の各グループで活動致しました。

#### 2. 年鑑制作の目的と活用

本年鑑により、私共の活動を会員諸氏並びに関連機関の方々に御紹介させていただきます。その目的は、各部会・支部・委員会並びに会員諸氏との”協働”した技術士会事業に貢献したく、私共への更なるご理解を深めて頂くこと、並びに”協働企画(講演会・見学会・CPD活動等)とその実施”をご検討して頂くことです。

本年鑑が活用され、協働企画が実現できれば望外の喜びです。尚、本内容はHPへも掲載しております。

### 3. 年鑑内容のご紹介

#### (1) 主な内容

各グループ活動実績、若手技術士補の青年技術士懇談会での活動エッセイ、メンバー紹介等が主な内容です。特に、特別シンポジウムとして江崎玲於奈博士・佐藤清会長を招聘した特別シンポジウム（平成15年5月17日、発明会館）は、盛況であり前述したスローガンに沿った青年技術士懇談会ならではの活動であったと思います。

#### (2) 平成14年度の活動実績

##### ◎若手技術者の国際交流活動の準備（関係委員会、事務局や国際課と連携）

APECを中心とした若手技術者の相互交流活動の企画と準備活動を実施。

- ・8月開催の中国若手技術者ミーティング参加準備と人選（1名派遣）の実施。
- ・10月開催のAPEC若手技術者フォーラム参加準備と人選（2名派遣）の実施。

##### ◎技術士会と青年技術士会活動の広報活動（関連部会や委員会と連携）

当会HPの改訂、技術士会HPへのリンクと技術士会への情報提供、技術士会活動のニューズレターを会員に配付並びに月刊技術士に活動記事掲載等を実施。

##### ◎月例会の開催（関連部会や委員会と連携）

講演会12回、見学会2回、研修会2回。延参加者673名。

##### ◎特別シンポジウムの開催検討（外に開かれた公開活動、関連部会と連携）

江崎玲於奈博士を招聘した若手技術者向けの公開特別シンポジウムの開催。

（H15.5.17開催、佐藤会長も挨拶出席）。

##### ◎修習技術者支援活動（修習技術者支援実行委員会や事務局と連携）

泊まり込みを含めた有料の研修セミナーを単独又は修習技術者支援実行委員会と実施（4回実施、修習技術者166名が参加）及び指導技術士斡旋の実施。

##### ◎試験業務への協力（試験センター要請業務への協力；H14年度の事例）

- ・第2次試験業務；主任監督員236名、本部員18名の募集と実施。
- ・第1次試験業務；主任監督員151名、本部員16名の募集と実施。

##### ◎若手会員（修習技術者も含む）を母体とした会誌の作成及び書籍出版活動

当会の活動内容を年鑑として作成し、今年6月に配布する事業活動の実施。

##### ◎総会開催及び会の効率的な運営（政策委員会と連携）

- ・総会の開催と効率的で透明な会運営を進める規約・組織検討を実施。
- ・政策委員会にて、若手会員を対象とする組織検討が会として正式スタート。

### 4. 今後の活動

私供は、「開かれた、会員のための、サービス活動」のスローガンのもとに、現状の活動を発展させます。

また、新たな活動には技術士・修習技術者並びに他関係者も参集し事務局のサポートを得て、技術士会事業の発展に貢献していく所存ですので、青年技術士懇談会の活動へのご理解並びにアクティビティーへのご期待を宜しく、願致します。

以上

## 例会活動報告

### 月例会のテーマと出席者数

<2002年6月～2003年5月>

年月	出席者数	テーマ
2002年06月	34人	青年技術士懇談会総会
2002年07月	36人	「ノウフー」として若手技術士3名の講演
2002年08月	34人	ビアパーティー
2002年09月	21人	「技術士から見た2002FIFA World Cup」
2002年10月	22人	「地図と測量の科学館」見学会
2002年11月	35人	講演会「環境問題を考える」
2002年12月	39人	中間報告会, 忘年会
2003年01月	23人	公認会計士が語る技術者が知っておきたい 税務会計
2003年02月	49人	修習技術者例会
2003年03月	25人	講演会「技術者のメンタルヘルス」
2003年04月	20人	ノウフー「技術士大いに語る」
2003年05月	151人	第1回公開シンポジウム

※ 各例会の議事録を次頁以降に紹介します。

## 6月例会

### テーマ：青年技術士懇談会総会

日時：平成14年6月29日（土）15:00～17:00

場所：日本技術士会第二葺出ビル会議室 出席者34名

内容（議事録）：

#### ●平成13年度（第21B期）活動報告

##### (1) 第21B期年間活動

- ・役割分担，年間行事（北尾委員長）
- ・出席管理業務及び例会参加者（堀川委員）
- ・試験業務，名簿業務（時合委員）
- ・インターネット業務（手塚委員，正司委員）
- ・技術士補・修習技術者支援（曲渕委員）
- ・第21B期会計報告（近江委員補佐）
- ・その他（北尾委員長）：例会案内方法の改善により参加者が増加しているとの報告があった。

(2) 第21B期の活動報告の承認：質疑応答の後，出席者の拍手で持って承認された。

#### ●22A期委員の選任及び委員交代

以下の通り，委員の交代について承認された。（☆印は委員補佐（技術士補，修習技術者））

- ・退任委員：北尾由之（情報工学），高橋俊和（環境，衛生工学），安藤秀樹（情報工学），飯塚洋人（生物工学），櫻井重英（建設），新里達也（建設，環境），堀川滋雄（応用理学，建設），曲渕正敏（電気・電子） ☆富永泰志（電気・電子）
- ・残留委員：時合健生（化学，新委員長），手塚史展（衛生工学），戸谷次延（電気・電子），正司康雅（機械），☆近江麻衣子（環境），☆益子理（環境）
- ・新任委員：野村貢（建設，総合技術監理），桜井裕一（建設），笠井睦（環境，建設），秋好忍（機械），佐藤嘉憲（応用理学），松浦勝博（情報工学，電気・電子），☆原田篤史（生物工学），☆山田英樹（建設），☆伊藤英忠（応用理学），☆佐々木政幸（建設），☆井上譲（建設），☆佐藤大樹（環境）

#### ●平成14年度（第22A期）活動計画と承認

##### (1) 第22A期年間計画の説明

時合新委員長から，22A期委員の役割分担，年間活動計画について説明があった。また，特別企画としてノーベル賞受賞者を招聘した講演会もしくはシンポジウム企画についての説明があった。

(2) 第22A期の活動計画の承認：要望検討の後，出席者の拍手でもって承認された。  
(北尾由之 記)

## 7月例会

**テーマ:**「ノウフー」として若手技術士3名の講演

日時:平成14年7月19日(金)18時50分~21時30分

場所:日本技術士会第二荳手ビル5階A・B会議室 出席者36名

内容(議事録):

### 1.「考え方を広げるヒント」(北尾由之氏:アロカシステムエンジニアリング株式会社)

導入部でいきなり「武蔵と小次郎」が登場し、聴衆は一様に「何が始まったのだろうか?」と不安にかられた。しかし、「少しでも可能性を高められる要素を洗い出し、有効な手を打つ」、「過去の成功体験に囚われないことの重要性」「敵を知り、己を知らば、百戦危うからず」等々という言葉にみな納得したはずである。これらに対する具体的なアプローチ法の一つとして「対語」の概念を紹介され、非常に分かり易い講義であった。

### 2.「鑄造設備・私の経験談」(秋好忍氏:草野産業株式会社)

氏はまず会社の概要と素形材産業について概説された。最近業界は転・廃業が多く、1300社(平成1年)が940社(同13年)まで減り、現在でも減っている状況が話された。その理由として、例えば埼玉などの市街地の場合にはマンション経営に転じた方が社会情勢に合致している、高齢化が進んでいる、中国からの輸入物が進んでいる、等を挙げられた。続いて、氏のこれまでの成功・失敗談が話され、「常に初心に立ち返って仕事を進めることの重要性」を説かれた。経験に裏打ちされているだけに説得力があった。

### 3.「Man at the great depth」(野村貢氏:株式会社建設技術研究所)

まず「やぐら」の芸術性を話された。どこがよいのか分からないが、「これがいいのだ」と言われていると、次第にその気になってくるのが不思議であった。次いで「人はどれくらい掘ってきたか」を具体的なデータを元に示された。国内では都営大江戸線がGL-49m、建造物では国会図書館がGL-30m、鉦山では幌内がSL-1140m、別子がGL-2150m、延坑道700kmで最大とのこと。廃棄物関連に従事している身にとっては、掘った土をどこに捨てたのか、が非常に気になった。一時期話題になった大深度地下開発は3大都市圏では具体的計画なし、とのことで開発の難しさを改めて認識した。

(手塚史展記)

## 8月例会

### テーマ:ビアパーティー

日時:平成14年8月29日(木)18時30分~20時30分

場所:新宿「HUB」 出席者34名

内容(議事録):

本会は、45才未満以下の会員を対象とした活動を行っている。8月例会は例年、技術士二次試験の2日目終了後に行っており、親睦と情報交換を兼ねた会としている。今年のビアパーティーには、近年受験者の増加が著しい多数の修習技術者の参加があり、修習のあり方や参加者同志の懇親を深める有意義なビアパーティーであった。例年同様に、二次試験の監督員や本部でお手伝いをしたり、受験を済ませた会員各位が、秋以降の下記例会での企画趣旨説明・関係者の段取りや会の特別企画並びに修習技術者支援活動の企画策定・運営等について、美味しいビールとともに話題交換し、本年もまた盛況な会となった。

#### 1. 青年技術士懇談会の紹介

青年技術士懇談会は、(社)日本技術士会の調査委員会で45才未満の会員(技術士約1,600名)で構成される全国組織である。当会の活動は、講演会や見学会等の月例会活動を中心に修習技術者育成活動や日本技術士会技術士試験監督等の業務並びに会員相互での情報交換・異業種交流等での活発な活動を行っている。平成14年度は、委員としての技術士10名と委員補佐として技術士補の方9名で、「開かれた~Open, 会員のための~Useful, サービス活動~Servant」というスローガンで活動しているので、積極的な参加をお願い致したい。

#### 2. 次回例会案内

9月例会はワールドカップの興奮も冷めやらぬ今、技術者の視点でこのイベントを検証してく。

日時:9月27日18:45~ 場所:技術士会荻手第二ビル5階(A・B会議室)

10月例会は親子参加イベントとして、地図と測量の科学館の見学会を実施する。親子やカップルで参加できるように、土曜日開催の予定。

日時:10月26日13:00~ 場所:つくば市「地図と測量の科学館」

#### 3. 第15回修習技術者研修セミナーの案内

平成14年11月16日(土)と17日(日)の2日間、主催:修習技術者支援実行委員会、青年技術士懇談会で行われる表記研修セミナーの紹介と、各担当業務の募集を行った。(原田 篤史 記)



## 9月例会

**テーマ:** コーヒーブレイク討論「技術士から見た 2002FIFA World Cup」

日時: 2002年9月27日(金) 18時45分~21時

場所: 日本技術士会第二葺手ビル5階会議室 出席者21名

内容(議事録):

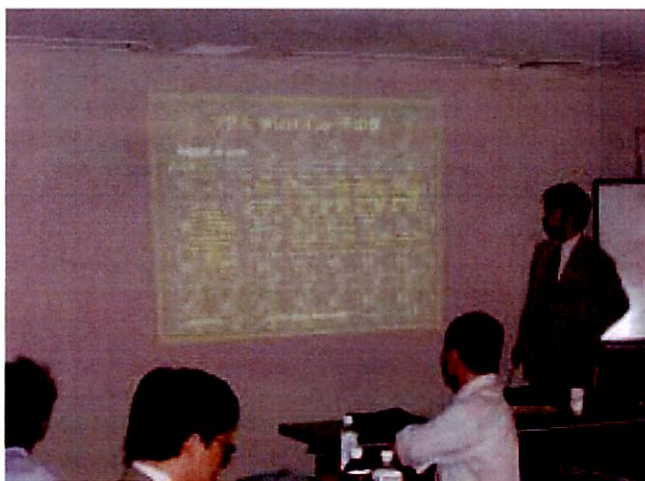
内容: 今年6月に2002FIFA World Cupが開催され、成功のうちに閉幕した。その中でさまざまな技術的検討がなされ、イベントをバックアップした。しかしながら、技術士として見た場合に反省や改善をすべき点があったことも否めない。例会では、ワールドカップを総括するプレゼンテーションの後、いろいろな角度から討議した。課題として残ったのは、競技会場の「その後」である。数々の新しい試みを取り入れたサッカー場であるが、その後の利用や維持に各自治体が経済的にも問題を抱えることとなっている。これらについても具体的事例など踏まえて解決策を講じることに議論は及び、有意義な議論ができたと考えている。

(記: 正司 康雅)

・メールニュースの案内

日本技術士会の行事案内はがきが廃止されます。青年技術士懇談会では各位に情報伝達する方法として、メールニュースを刊行しています。希望者は、本文に #subscribe登録者の氏名 と書いたメールを SEIGIKON-NEW-ctl@y7.com 宛に送って下さい。

(は半角スペース。登録者の氏名(メールアドレスではありません)は半角アルファベット。)



グループに分かれて、激しい議論が展開されました。



## 10月例会

### テーマ：「地図と測量の科学館」見学会

日時：平成14年10月26日（土）13時～16時30分

場所：国土交通省国土地理院「地図と測量の科学館」参加者 会員12名，家族3名，子供7名 計22名

#### 内容（議事録）：

10月例会は，親子参加イベントとして見学会を行った。本会の例会は講演会や見学会を原則として毎月実施しており，随時土曜日開催も行っている。今回は日頃，多忙な青年技術士懇談会会員諸氏が参加しやすいこと，会の行事をご家族にも理解していただき，共に学習の機会となることを主眼に「親子参加イベント」として企画したものである。

当日は殆どの参加予定者が出席され，「親子参加イベント」として，なかなか楽しい会となった。また，都内開催が多い通常例会にはなかなか参加できない遠方在住の方の参加もあり，今後の例会運営の方法について考えさせられるところもあった。

（記：野村 貢）

#### ・メールニュースの案内

日本技術士会の行事案内はがきが廃止されます。青年技術士懇談会では各位に情報伝達する方法として，メールニュースを刊行しています。希望者は，本文に #subscribe登録者の氏名 と書いたメールを SEIGIKON-NEW-ctl@y7.com 宛に送って下さい。

（は半角スペース。登録者の氏名（メールアドレスではありません）は半角アルファベット。）



館長さんが館内の説明をしてくれました。



## 11月例会

テーマ：講演会「環境問題を考える」

日時：平成14年11月29日（金）18時30分～20時30分

場所：日本技術士会第二葺手ビル5階A・B会議室 出席者35名

内容（議事録）：

青年技術士懇談会の11月例会は、「環境問題を考える」として講演会を行った。

近年の環境問題は、複雑化するとともに、時間的、空間的スケールが拡大していることがあげられ、ここ100年くらいの間に人類、生態系全体の危機になりうるような危急の問題もあり、我々技術者としても協調して取り組むべき問題といえる。また多様な技術者がそれぞれの局面に積極的に参加していくことが求められており、技術士の役割は大きいと考えられる。

このような点を踏まえ、今回、新田義孝先生と島田正文先生のお二人をお招きして御講演いただいた。

新田先生には「昨今の温暖化に関する諸問題とこれからの技術者に望まれること」と題してテレビの環境番組などでは聞けないような大変興味い、貴重なお話をいただき、島田先生には「緑のあるまちづくりと諸課題ー緑の中のまちづくりを目指してー」と題して都市内の緑の多様な役割と課題について幅広くお話をいただいた。

### ・メールニュースの案内

日本技術士会の各部会、委員会等の行事案内はがきが廃止されました。青年技術士懇談会では会員各位に情報伝達する方法としてメールニュースを随時刊行しています。

配信希望者は、本文に #subscribe登録者の氏名 と書いたメールを SEIGIKON-NEW-ctl@y7.com 宛に送って下さい。（は半角スペース。登録者の氏名（メールアドレスではない）は半角アルファベット。）

（笠井 睦 記）

## 12月例会

**テーマ:**中間報告会, 忘年会

日時: 平成14年12月7日(土) 16時~20時30分

場所: 中間報告会: 機械振興会館, 忘年会: 銀座スペイン風居酒屋シエスタ, 出席者39名

内容(議事録):

### 1. 中間報告会

青年技術士会の12月例会は、22A期前半期の活動報告会と後半期へ向けての活動内容について討議を行った。主な討議内容は以下の通り。

#### 1) 国際交流グループ

若手技術士や修習技術者とAPEC若手技術者との相互交流活動企画の作成・人事交流プログラム作成並びに人材交流を実施する。

2) 出版企画グループ: 活動報告のレビュー(日本語・英語)や年鑑の作成並びに一般書を修習技術者も含め、出版企画する。

3) 支部交流グループ: 各支部の若手技術者・修習技術者との合同例会・合同企画開催。

4) 修習技術者支援グループ: 委員・委員補佐を中心として、修習技術者を対象とした修習セミナーを当会単独並びに修習技術者支援実行委員会等と共催で実施。

5) 広報・インターネット関連グループ: 会業務の案内・メールニュース等の広報活動。

#### 6) 技術士試験支援グループ

7) 特別シンポジウム実行委員会: 江崎玲於奈博士を招き、5月17日(土)に若手技術者を対象の特別シンポジウムを開催する。「これから日本の研究開発能力・技術力の維持発展のために若手技術者は何を考え、何をなすべきか」テーマとして、講演、パネル討論を行う。

8) 規約改定グループ: 委員会運営の効率化、透明化の向上並びに中長期的な若手技術者会員の増大を想定し、規約の改定並びに組織変更の検討を行うこととした。

なおこれらの詳細については、逐次、青年技術士懇談会のホームページにアップしていきます。青年技術士懇談会のホームページは、技術士会のホームページから入ってください。行事案内も掲載しています。

2. 忘年会: 委員会終了後、会場を移して恒例の忘年会を開催した。(野村 貢 記)



## 1月例会

**テーマ：講演会「公認会計士が語る技術者が知っておきたい 税務会計」**

日時：平成15年1月17日（金）18時45分～20時45分

場所：日本技術士会第二葺手ビル5階会議室 出席者23名

内容（議事録）：

青年技術士懇談会では会員の資質向上、スキルアップとともに自立した技術者となるためのノウハウの提供、情報交換を目指しています。1月は実務的なノウハウの提供として、実際に技術士事務所を看ておられる公認会計士において頂き、技術者、特に個人事務所を構える方、目指す方が知っておきたい税務会計の知識について講演していただきました。

（野村 貢 記）

## 2月例会

### テーマ： 修習技術者例会

日時：平成15年3月1日（土）14時00分～20時30分

場所：日本技術士会第二葛出ビル5F, A, B会議室, 出席者49名

内容（議事録）：

青年技術士懇談会の2月例会は、「修習技術者」をテーマとして講演会およびグループディスカッションを行った。修習技術者の能力形成、技術修得、人脈作り、懇談の場の提供を目的として、今回のテーマに沿って委員補佐（修習技術者）により企画運営された。当日の参加者は悪天候にもかかわらず、学生6名を含む、合計49名と盛況であった。

#### 1, 講演会

##### ①「技術士を目指すべく技術士補が意識すること」 国土交通省京浜工事事務所 藤尾 薫氏

平成13年度二次試験合格者の中で、最年少合格者であった藤尾氏からは、技術士と修習技術者の違いである応用能力について、実務例を交えながら説明いただいた。

##### ②「技術士取得に向けて」 株式会社横河ブリッジ 永田 考氏

平成14年二次試験合格の永田氏からは、ご自身の経験論文テーマを中心に、二次試験対策について説明いただいた。いろいろな部門の参加者に対して、橋梁を中心とした多くの写真を交えながら分かりやすく説明いただいた。

#### 2, グループディスカッション

先輩技術士をコーディネータとして6つのグループに別れた。ディスカッションテーマは「情報収集方法」、「時間管理方法」から各グループごとに選択した。「情報収集方法」については、二次試験対策だけでなく、技術者としていかに情報を収集し応用するかなど濃い議論が交わされた。途中、コーディネータから、発言の少ない参加者に「もっと積極的に意見を述べ討論すべき」という激励があったなど熱い一幕もあった。

(佐々木 政幸 記)

## 3月例会

**テーマ：**講演会「技術者のメンタルヘルス」

日時：平成15年3月29日（土）16時～18時30分

場所：日本技術士会第二葺出ビル5F，出席者25名

内容（議事録）：

題目「技術者のメンタルヘルス」

佐藤嘉憲 技術士（応用理学），博士（工学），産業カウンセラー

中台英子 産業カウンセラー

### 1. 実例に関して

今回の例会の幹事でもあり、講師でもある佐藤嘉憲より、自らの体験を例にあげながら、技術者のメンタルヘルスに対する危惧が問題提示された。チェックリストなどを使用しながら、各々の具体的な問題であることを強調しつつ、実情をあからさまにしながら、生々しい実態が紹介された。

### 2. 一般的な内容に関して

中台講師は、前述の講演内容に対する補足説明を行ないながらも、技術者に限らずその同僚や家族などにも関する問題として、内容をより一般化して詳しく紹介した。アンケートの集計結果から、問題の深刻さが伝わったことがうかがえた。（佐藤嘉憲 記）



## 4月例会

### テーマ:技術士大いに語る！

日時：平成15年4月25日（金）18時30分～20時30分

場所：日本技術士会第二葺出ビル5F A, B会議室, 参加者 20名

内容（議事録）：

青年技術士懇談会の4月の例会は、「技術士大いに語る！」と題して4人の技術士が講演を行った。昨年  
から本年5月まで日刊工業新聞社「機械設計」に掲載されたエッセイの中からトピックスとなる話題を提  
供された。

#### 1. 講演会

##### ①「4人は車に乗った！」

草野産業(株)秋好 忍氏

4人の技術士がエッセイを連載するに至った経緯、趣旨目的について、さらに今後の活動について説明  
を頂いた。

##### ②「修習技術者時代の経験と今後の技術者の理想像」

オルガノローディアフードテクノ(株)中村 弘氏

氏の技術士補時代の経験談、情報収集方法、今後の技術者の理想像について説明を頂いた。

##### ③「グローバル化と技術者の国際化」

三菱重工業(株)藤岡 昌則氏

グローバル化と技術者の国際化、原動機の歴史から考える機械技術者の技術伝承、新500円玉  
に見る微細加工技術と技術マネジメントの必要性、について日常業務の中での所感を交え説明を頂いた。

##### ④「健康管理に物申す」

横河電機(株)笛木学氏

人間の死亡率をプロットするとバスタブ曲線に酷似した曲線を描くこと、設備診断技術における予防管  
理を健康に置き換えるべきである等の説明を頂いた。

#### 2. メールニュースの案内

青年技術士懇談会では会員各位に情報伝達する方法としてメールニュースを随時刊行しています。  
配信希望者は、本文に #subscribe登録者の氏名 と書いたメールを SEIGIKON-NEW-ctl@y7.com  
宛に送って下さい。(  は半角スペース。登録者の氏名(メールアドレスではない)は半角アルファベット。)

#### 3. ホームページの案内

青年技術士懇談会のホームページへようこそ。青年技術士懇談会の活動報告や今後予定を随時告知して  
います。日本技術士会ホームページの「部会・委員会のページ」からお入りください。

(秋好 忍 記)



## 5月例会

### テーマ:特別公開シンポジウム

日時:平成15年5月17日(土)10時30分~15時

場所:発明会館

内容(議事録):参加者151名(スタッフ含む)。

#### 1. 実施目的と背景

今、グローバルな世界秩序が大きく変わりつつあるなか「世界的な技術開発競争の進展」、「技術者の社会的な処遇の見直し」、「プロフェッショナルな人材の国際的な流動化」が進んでいる。私共は、このような状況の中で、日本の若手研究開発者・技術者にとっては、「自らが目指すべき研究開発スタイルや目標人物とその形成活動、国際化の進展による技術者の人材流動化への対応並びに自己啓発・相互研鑽などに対し、どう対応したらいいか」という道標~ステークホルダーへの関心が非常に高まっていると考えた。そこで江崎玲於奈博士を招聘し、「独立可能なスキルを持つ若手技術者、研究者」を対象に、研究開発者の活動指針やヒントを提供することを目的とした「江崎博士の基調講演+公開パネル討論」~公開シンポジウムを技術士会事務局の支援のもと開催した。

#### 2. シンポジウム開催内容

(1)テーマ:「これから日本の研究開発力・技術力の維持発展のために日本の若手技術者は何を考え、何をなすべきか」

(2)総合司会 岩熊まき

(3)開会挨拶:飯塚実行委員長

(4)挨拶:(社)日本技術士会会長 佐藤 清

(5)講演:芝浦工業大学学長 江崎 玲於奈 博士

(6)講演に引き続き、パネル討論を開催

パネリスト:江崎 玲於奈 [芝浦工業大学学長:理学博士] 他5名。

(7)場所:発明会館 東京都港区虎ノ門2-9-14(地下鉄銀座線虎ノ門,日比谷線神谷町徒歩10分)

(8)参加費:技術士会会員3,000円,非会員6,000円 学生無料

#### 3. 江崎玲於奈博士の基調講演

江崎博士からは、自身の生い立ち、旧制中学・旧制高校と東京大学時代の青春時代の学問体験、社会人となっては神戸工業(初就職先)、東京通信工業(現在ソニー)時代、それから国外企業体験(米国IBM)並びに筑波大学・現芝浦工業大学長の幅広い研究開発体験について、各種のエピソードを交え基調講演をして頂いた。氏の提言は、多種多様であったが幾つかのキーワード・キーセンテンスを紹介したい。それらは、①限界への挑戦、②幸福は準備した人の所へやってくる、③今まではグループオリエンテッド(グループ指向)、これからはチャレンジで個人の才能~タレントを重視し発揮、④分別力と想像力、⑤日本はフォロワーからトップランナーへ、⑥ライフを探求し活用する時代、⑦創造性をもっと必要で知的財産権

重視の時代、⑧少し先を見通せる能力が必要（アイザック・ニュートン）、⑨未来指向の言葉～想像力、挑戦、変革、グローバル、⑩（研究の）評価は、好き嫌いがあってもよい、等であった。紙面の都合上、他の有益な提言は割愛する。

#### 4. パネリスト討論

パネル司会：石井聡 [双葉電子工業：工学博士 技術士（電気・電子）]

パネリスト：江崎 玲於奈 [芝浦工業大学学長：理学博士]

坂本 恵一 [日本大学助教授：工学博士 技術士（化学） 研究者代表]

新里 達也 [(株)環境指標生物代表 農学博士 技術士（環境、建設）独立系代表]

矢田 美恵子 [(財)バイオインダストリー協会 技術士（総合技術監理、生物）企業内技術士]

宮入 賢一郎 [(株)公園緑地設計事務所 技術士（総合技術監理、建設）企業内技術士]

江崎博士を交えたパネル討論では、会場の質問も含めて若手技術者に有益な提言がたくさんあった。その一例は、

新里氏：時間や楽しみたい事は仕事を工夫し、やりくりしながら、生み出すものである。それ位、仕事～開発業務に取り組むべきである。

矢田氏：仕事に視野と関心を広げ、協働～コラボレーションをすることが非常に大切である。

坂本氏：今後、J A B E Eの認定教育制度はそれなりに機能するのであろうが、むしろ非J A B E Eの経歴人種が活躍するかも知れない。

宮入氏：科学技術自体が巨大化していく中で、技術だけでなくヒューマンインターフェースが今後もっと必要になってくる。

等、たくさんの提言を頂いた。

#### 5. アンケートからの意見

参加者には、学生と非会員も含め30名程の参加があった。参加者のアンケート（回収率約80%）からは、今回の内容については、大変有益であり技術者人生のヒントや指針が得られた旨の回答が殆どであった。これらの結果を受けて、次年度は今回同様に「開かれた、会員のために、サービス活動」のスローガンの元に第2回のシンポジウムを開催していきたい。

（野村 貢 記）

シンポジウム写真集



## サブグループ活動報告

青年技術士懇談会では、月例会活動の他に目的別にサブグループを立ち上げて活動しております。サブグループ活動は委員・委員補佐だけではなく、協力員をはじめとする会員のみなさまも積極的に参加いただいております。第22A期では、次に示すサブグループ活動を実施しました。

### サブグループの紹介

(○:責任者, \*:委員・委員補佐以外の協力者)

#### ◆国際交流グループ◆

当会若手技術士や修習技術者とAPEC若手技術者との相互交流活動企画の作成・人事交流プログラム作成並びに人材交流業務を関係委員会や技術士会事務局のサポートを得て実施しています。

○伊藤英秀・手塚史展・野村貢・桜井裕一・正司康雅・秋好忍・久保康弘・益子理・山田英樹・(\*)掛川昌俊

#### ◆広報・インターネット関連グループ◆

会業務の案内・活動事例紹介・メールニュース等の広報活動を行っています。

○秋好忍・手塚史展・正司康雅・松浦勝博・佐々木政幸

#### ◆例会支援活動・出席管理グループ◆

月例会や特別シンポジウムなどの出席把握並びにCPD申請に対応した出席管理・名簿管理を行っています。

○原田篤史・佐藤大樹・桜井裕一・戸谷次延・益子理

#### ◆特別シンポジウム実行委員会◆

会員向けの月例会以外に非会員若手技術者や大学生等を対象としたシンポジウムや見学会・講演会を企画開催致します。

○野村貢・時合健生・手塚史展・正司康雅・秋好忍

#### ◆修習技術者支援業務グループ◆

修習技術者に最も近い年齢・業務を経験している当会委員・委員補佐を中心として、修習技術者・技術士補を対象とした修習セミナーを当会単独並びに修習技術者支援実行委員会等と共催で実施しています。

○笠井睦・佐藤嘉憲・戸谷次延・伊藤英忠・山田英樹・佐々木政幸・近江麻衣子・益子理・井上譲・園家研一郎

#### ◆技術士試験業務グループ◆

技術士会の協力要請により、技術士第一次・二次試験監督員並びに受験願書審査業務員の募集業務とスムーズな実施を技術士会と連携して実施しています。

○桜井裕一・手塚史展・秋好忍

#### ◆出版企画グループ◆

当会の活動報告のレビュー(日本語と英語版)や年鑑の編集・作成並びに一般書(例えば、技術士関連の資格本やキャリアアップ本の執筆など)を修習技術者も含め、活発に作成・出版しています。

○松浦勝博・桜井裕一・秋好忍・時合健生・(\*)村田雅尚・(\*)掛川昌俊

#### ◆組織・規約検討グループ◆

会運営の効率化及び透明化並びに中長期的な若手技術者の増大を想定し、会規約の改定並びに支部体制も意識した組織の検討や技術士会との調整・折衝を行います。

○時合健生・野村貢・手塚史展・正司康雅・松浦勝博・山田英樹・近江麻衣子・(\*)北尾由之・(\*)石井聡

◆支部交流グループ(兼支部連絡窓口)◆

北海道, 東北, 北陸, 中部, 関西, 中・四国, 九州の各支部の若手技術者・修習技術者との合同例会・合同特別企画開催並びに行事連絡等をスムーズ且つ活発に実施しています。

○桜井裕一・戸谷次延・時合健生・野村貢・手塚史展・佐藤大樹・(\*)小松秀次

各サブグループの第22A期における活動成果及び今後の予定については、次頁以降のレポートを参照願います。

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	国際交流グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○伊藤，野村，桜井，手塚，秋好，正司，益子，山田，佐々木，掛川，野田，久保
グループの目的・活動の趣旨	・APECを中心とした海外若手技術者との交流。
今期の活動内容	<p>・平成14年10月4日，日本技術士会江川氏・高城氏より APEC 若手技術者の活動状況の紹介を受ける。</p> <p>・平成14年11月1日，日本技術士会江川氏・高城氏同席のもと，当グループの結成がなされた。</p> <p>・平成14年11月14日，海外技術者の状況を把握するため，(社)日本技術士会に於いて関係する資料の閲覧等を行った。 (海外技術者の CPD 状況などの報告書)</p> <p>・平成14年12月6日中間報告会 グループ設置が承認を諮問し承認される。 当面の主たる活動として，2003.10 にインドネシアで開催される CAFE0・YEAFFEO (APEC 若手技術者のフォーラム) に参加する見通しである。</p> <p>・平成15年1月24日，香港の技術者が日本技術士会へ訪問する予定に合わせて，青年技術士懇談会の紹介を行う旨打診があり，当グループ内のペーパー作成実施。 →この件については，2月中旬，香港技術者の訪日にあわせて青技懇の紹介を行うと同時に，相手方技術者の紹介ペーパーをも日本技術士会を通じて受ける。</p> <p>※また後日，前述の香港技術者より中国への視察旅行について勧誘を受ける。</p>
活動成果	<p>・去年暮れに立ち上がった当グループは，メンバーが現在のところ10数名であり，西日本・東日本地区に分担して活動を行っている状況である。当面は，CAFE0・YEAFFEO 参加を第一とした活動が主になる(今年10月に2名参加予定)。日本技術士会事務局との数回のコンタクトの課程において，香港の技術者へ向けての青年技術士懇談会の紹介は一つの足がかりといえる。さらに，中国視察旅行の招待を受けているが，メンバー調整中。</p>
今後の予定・展開	<p>・今年の10月に開催される APEC 技術者フォーラム (CAFE0・YEAFFEO) への参加を行い，日本の若手技術者の PR を行う(現在のところ2名の参加候補者)。</p> <p>・海外の技術者を国内のフォーラムに招待するなどの案もある。これについては受け側(日本)の関係機関との協議が前提となり，今後国際交流グループが中心となって関連部署と連携し，具体的な活動企画を策定し実行する。</p>
その他	

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	広報・インターネット関連グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○秋好, 手塚, 正司, 松浦, 佐々木
グループの目的・活動の趣旨	会業務の案内, 活動事例紹介, メールニュース等の広報活動を行うことにより, 会員の交流を深めることを目的とする。
今期の活動内容	<p>上記趣旨のもと, 2002年6月に新旧メンバーの引継ぎを行い, 7月から現在のメンバーによる具体的な活動を推進した。活動の主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットホームページ (HP) の運営 昨年10月にHPのコンテンツを全面的に改定した。過去の例会議事録の検索を容易にし, 会員にわかり易いHPを目指している。</li> <li>2. ニュースリストの運営 修習技術者, 技術士補の会員増加に対応すべく, 配信メンバーを増加させた。</li> <li>3. グループメンバーによるミーティング 広報活動のメンバー5名による定期的ミーティングを実施した。 7月, 12月</li> </ol>
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. HPの改定を実施した。</li> <li>2. ニュースリストの配信を継続的に実施した。</li> </ol>
今後の予定・展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. HPの再改定を計画準備中である。併せて中部, 大阪等の青年技術士懇談会のHPとリンクを実施し, 全国的な会員の意見交換が可能なコンテンツ作成を目指す。</li> <li>2. ニュースリストの配信による例会参加者の把握を継続的に実施する。</li> </ol>
その他	

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	例会支援活動・出席管理グループ①
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○益子, 戸谷, 堀川
グループの目的・活動の趣旨	本グループは以下を目的とする ① 青年技術士懇談会活性化に向けての例会の運営円滑化支援業務 ② 会員相互間の交流促進
今期の活動内容	<p>●21B 期用の例会出席簿フォーマット作成 (2001 年 6 月)。          ●青年技術士懇談会例会参加者の個人情報管理。(1) 参加記録, (2) 部門, (3) 所属, (4) メールアドレス, ほか)          ●各例会において参加者管理業務 (受付, 記録, 名簿作成およびその配布) を遂行 (2001 年 7 月～2002 年 5 月)。          ●例会活動の具体的内容</p> <p>[2001 年]</p> <p>6 月度：青年技術士懇談会総会 (01/6/30, 参加者：34 名)          7 月度：ノウフー「水環境ビジネスの現在と将来展望」豊原大樹氏, 「私のキャリアアップ? あなたのキャリアアップは?」時合健生氏, 「リサイクルの問題点と今後の課題」手塚史展氏 (01/7/13, 参加者：25 名)          8 月度：懇親会 (兼試験監督補助業務慰労会)：「ビアパーティ」(01/8/23, 参加者：31 名)          9 月度：講演会「金(GOLD)のはなし」(01/9/15, 参加者：22 名)          10 月度：講演会「バイオベンチャー支援の現場」(01/10/26, 参加者：21 名)          11 月度：講演会「IBMと環境経営」坂本茂實氏, 「プロジェクト管理技術とDFD技法」丹羽展男氏 (01/11/30, 参加者：16 名)          12 月度：講演会「ロボティクスの最新動向」及び忘年会, 東京電機大学助教授 栗栖正充氏 (01/12/15, 参加者：16 名)</p> <p>[2002 年]</p> <p>1 月度：講演会「最近の産業機械の話題～大容量サーボモーターの活用」戸谷次延氏 (02/1/18, 参加者：17 名)          2 月度：技術士補・修習技術者のための例会 (02/2/17, 参加者：44 名)          3 月度：講演会「自然史博物館の意義と社会的役割」国立科学博物館動物研究部 友国雅章氏, 「生物多様性と分類学」東京大学総合研究博物館 佐々木猛智氏 (02/3/29, 参加者：35 名)          4 月度：講演会「企業型ベンチャーの新戦略」森本晴久氏, 「地震予測ベンチャーの軌跡と今後」犬伏裕之氏 (02/4/19, 参加者：47 名)          5 月度：見学会「横浜市清掃工場, リサイクル施設及び余熱施設」(02/5/25, 参加者：28 名)          6 月度：青年技術士懇談会総会 (02/6/29, 参加者：41 名)</p>
活動成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 例会活動支援により例会の円滑な運営および参加者間の交流促進に貢献した。</li> <li>● 名簿に技術士と修習技術者の別を記載することで, 修習技術者の指導技術士探しに寄与した。</li> <li>● 平日参加が難しい人のために土曜日開催を行なった。家族連れの参加もあり, 好評であった。</li> <li>● 例会案内葉書を関東近郊の準会員にまで広げたことにより, 参加者が増加した。</li> </ul>
今後の予定・展開	土曜日開催は今後も鋭意検討する。
その他	特になし。



青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	例会支援活動・出席管理グループ②
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○原田，桜井，戸谷，益子，佐藤大樹
グループの目的・活動の趣旨	本グループは以下を目的とする ①青年技術士懇談会活性化に向けての例会の運営円滑化支援業務 ②会員相互間の交流促進 ③CPD エビデンス管理
今期の活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●22A 期用の例会出席簿フォーマット作成 (2002年6月)。</li> <li>●青年技術士懇談会例会参加者の個人情報管理。(1) 参加記録, (2) 部門, (3) 所属, (4) メールアドレス)</li> <li>●各例会において参加者管理業務 (受付, 記録, 名簿作成およびその配布), CPD 管理) を遂行 (2002年7月～2003年3月例会)。(所属などの名簿記載項目の変更, 及び新規合格者等の新規参加者については随時フォーマット更新。)</li> <li>●例会活動の具体的内容</li> </ul> <p>[2002年]</p> <p>6 月度：青年技術士懇談会総会 (02/6/29, 参加者：36名)</p> <p>7 月度：ノウフー (02/7/19, 参加者：36名)</p> <p>8 月度：懇親会 (兼試験監督補助業務慰労)「ビアパーティ」(03/8/29, 参加者：34名)</p> <p>9 月度：コーヒーブレイク「FIFA ワールドカップ, 技術者から見たその成功と失敗」(02/9/27, 参加者：21名)</p> <p>10 月度：見学会 (国土交通省 国土地理院「地図と測量の科学館」) (02/10/26, 参加者：会員13名, 家族3名, 子供7名 = 23名)</p> <p>11 月度：講演会：「環境問題を考える」(02/11/29, 参加者：35名)</p> <p>12 月度：報告会「平成13年度半期活動報告会+忘年会」(02/12/7, 参加者：39名)</p> <p>[2003年]</p> <p>1 月度：講演会「公認会計士が語る技術者が知っておきたい税務会計」(2003/1/17, 23名参加)</p> <p>2 月度：修習技術士「先輩技術士から技術士補に向けての講演, 技術士補同士のグループディスカッション」(2003/3/1, 49名参加)</p> <p>3 月度：講演会「技術者のメンタルヘルス」(03/3/29)</p> <p>4 月度：ノウフー 『若手技術士大いに語る』(03/4/25)</p> <p>5 月度：特別シンポジウム・・・江崎玲於奈先生をお招きして・・・『これから日本の研究開発力～技術力の維持発展のために日本の若手技術者は何を考え, 何をなすべきか』(03/5/17)</p> <p>6 月度：青年技術士懇談会総会 (03/6/28)</p>
活動成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 例会活動支援により例会の円滑な運営および参加者間の交流促進に貢献した。</li> <li>● 名簿に技術士と修習技術者の別を記載することで, 修習技術者の指導技術士探しに寄与した。</li> <li>● 例会参加実績の管理により CPD エビデンス管理を遂行した。</li> </ul>
今後の予定・展開	今後も, 引き続き同様の活動を続ける。
その他	特になし。

サブグループ名	特別シンポジウム実行グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○野村貢, 時合健生, 手塚史展, 桜井裕一, 正司康雅, 松浦勝博, 秋好忍, 園家研一郎, 小松秀次, 藤岡昌則, 黒澤之, 柳沢剛, 笛木学, 中村弘, 原田篤史, 佐藤大樹, 伊藤秀忠, 戸谷次延, 佐藤, 嘉憲, 益子理, 佐々木政幸, 井上譲, 近江麻衣子, 山田英樹
グループの目的・活動の趣旨	スキルを持った独立可能な若手研究者, 技術者に対して, 啓蒙的なシンポジウムを実施する。 また, これらシンポジウム運営を通じて, 青年技術士懇談会の支部間交流や他部会との交流促進を図る。
今期の活動内容	シンポジウムは, 立ち上げから企画, 出演者交渉, 運営まですべてを青年技術士懇談会の会員, 準会員において行うことを主眼としている。シンポジウム目的をスキルを持った独立可能な若手技術者としたことで, ノーベル賞受賞者で自身も企業技術者の経験がある, 江崎玲於奈博士(芝浦工業大学学長)が講演者, パネラーに最適任と判断した。 シンポジウムは平成15年5月開催として, 実行サブWGを設けることでより多くの会員, 準会員がシンポジウム運営に関われるようにした結果, 委員および委員補佐全員が当サブグループのメンバーとなった。 「シンポジウム運営」はこれを通じてプロジェクトマネジメント研鑽のトレーニングとして委員, 委員補佐の日常活動に反映されている。 主な活動経過は次の通り。 (1) 2002/10 講演者調整 江崎玲於奈 芝浦工大学長 との講演交渉 (2) 2002/10 実行グループ立ち上げ。シンポジウム実行のため, 6つのサブWGを青年技術士懇談会内に設けた。 (3) 2002/11 実施計画会議 (4) 2002/12 会場確保(発明会館) (5) 2003/01 技術士会協議 シンポジウム内容等について主旨説明とともに, 佐藤会長の協力を得るように協議した。 (6) 2003/03/01 実行委員会全体会議 進捗状況および今後課題について, 全体WG会議により確認。 (7) 以後, 4月にWG会議2回, 5月1回を経て, シンポジウム開催となる。
活動成果	実行委員会に携わったメンバーの多くは, シンポジウム企画から運営に至る, プロジェクト推進の良い経験を得たといえる。また, シンポジウムテーマ選定, 運営を経て, 青年技術士懇談会が若手研究者, 技術者に対して, 情報・感性の発信源となり得ることを明らかにできたと考えられる。
今後の予定・展開	今回は第一回として位置付けており, 今後もスキルを持つ研究者, 技術者を対象に, 年1回の開催を目標としている。 今回は, 東京在住の青年技術士懇談会メンバーが主体となって運営しているが, 支部, 支部青年技術士懇談会との共同運営や地方開催などを企画することにより, 若手技術士, 技術士補の地域間交流にも寄与するように努めたい。
その他	特になし。

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	修習技術者支援グループ兼連絡員
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○笠井, 戸谷, 佐藤嘉憲, 伊藤, 山田, 佐々木, 近江, 益子, 井上, 園家
グループの目的・活動の趣旨	修習技術者支援実行委員は第一次試験合格者を、技術士補を含む広義の修習技術者と呼ぶようになったので、それらの方々の修習を支援する活動を担当する委員会である。当グループの役割としては、実行委員会の修習技術者支援活動の共同実施と支援であり、その対象は、”広義の”修習技術者である。
今期の活動内容	<p><u>(1)2002年8月31日～9月1日：第三回修習技術者研究発表大会</u> →参加, 運営補助</p> <p><u>(2)2002年10月12日：技術士・修習技術者相互研修会「技術者倫理に関するケーススタディ」</u> →参加, 運営補助</p> <p><u>(3)2002年11月16日～11月17日：第15回修習技術者研修セミナー</u> →当グループにおける最大イベントの一つ。企画, 運営も行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 企画</li> <li>② 開会挨拶, 青技懇紹介(時合)</li> <li>③ 総合司会(笠井)</li> <li>④ パネルディスカッションコーディネータ(同上)</li> <li>⑤ パネルディスカッションのパネリスト(石井, 田畑, 中村)</li> <li>⑥ 講義の講師(秋好, 戸谷)</li> <li>⑦ グループ討議の司会, 企画</li> <li>⑧ グループ討議のコーディネーター5名(野村, 桜井, 石井, 黒澤, 長谷山)</li> <li>⑨ 3月1日の青年技術士懇談会例会の宣伝資料, アンケートの作成, 配布等(佐々木, 支援グループ委員補佐)</li> </ol> <p><u>(4)2003年2月15日：一次試験合格者歓迎会</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 運営支援</li> <li>② パネリスト3名</li> <li>③ 青技懇活動の紹介概要資料作成など</li> </ol> <p><u>(5)2003年3月1日：青年技術士懇談会例会(修習技術者のための例会)</u> →青技懇の修習技術者(グループ委員補佐)が中心となって実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 講演, グループ討議などの例会全体の企画</li> <li>② 司会</li> <li>③ 懇談会準備</li> <li>④ 会場探しなど</li> </ol> <p>(6)毎月：修習技術者支援実行委員会との交流・月例会への参加 →毎月第二木曜日に委員会が開かれるので基本的には笠井が出席した。行事ごとの青技懇内で検討されて事項の報告や承認を行う。</p>
活動成果	技術士法改正に伴う、修習技術者の支援活動の重要性や今後の人数の増加等を認識し、修習技術者支援実行委員会とのセミナーの共同開催など、修習技術者の年齢層に最も近いという青技懇の特性を活かした活動が出来たものと考ええる。
今後の予定・展開	今後も、修習技術者支援実行委員会との密接な協力関係を築くとともに、増加する修習技術者の要望に応えるあらゆる窓口として、技術士会と修習技術者を幅広くつなぐ活動を展開していきたい。
その他	特になし。

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	技術士試験業務グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○桜井裕一，手塚史展，秋好忍
グループの目的・活動の趣旨	技術士会の協力要請により，技術士第一次・二次試験監督並びに受験願書審査員の募集業務を担当するグループである。 当グループの役割は日本技術士会の試験業務の支援活動である。
今期の活動内容	(1)平成 14 年 8 月 27～29 日開催：第 2 次試験の本部員・主任監督員の募集業務業務を実施した。 ・主任監督員 236 名 ・本部員 18 名  (2)平成 14 年 10 月 13～14 日開催：第 1 次試験の本部員の募集業務 ・主任監督員 151 名 ・本部員 16 名
活動成果	技術士試験制度の移行年度ということで，技術士会より本部員・主任監督員の多数の募集要請があったが，青年技術者懇談会のメンバーの多大な協力のもと所定の人員を確保でき技術士試験業務をスムーズに支援することができた。
今後の予定・展開	・平成 15 年 4 月：二次試験受験願書審査員の募集 ・平成 15 年 5 月：一次試験受験願書審査員の募集  今後も，技術士会よりの協力要請に進んで協力し，試験業務を連携して実施していく。 また，平成 15 年度からは，試験センターの協力要請にもとづき，大学等への受験説明・制度説明等を実施する。
その他	特になし。

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	出版企画ワーキンググループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	松浦○, 時合, 秋好, 桜井, 村田, 掛川
グループの目的・活動の趣旨	多彩な専門技術者集団である青年技術士懇談会の特徴を活かし、一般書籍の出版や専門雑誌への論文掲載などをおして、若手技術士から社会への科学技術普及活動を推進する。
今期の活動内容	<p>上記趣旨のもと、青年技術士懇談会委員及び協力員をワーキングメンバーとして、2002年12月に本ワーキンググループを発足した。</p> <p>まず、2002年12月例会において、会員の方々に本活動の目的・趣旨を説明し、多数の賛同を得た。これにより、2003年2月から本格的な活動を進めることとなり、当面下記3つのテーマを中心にして活動していくことになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青年技術士懇談会年鑑制作 1年間の活動内容及び成果をまとめた年鑑を制作し、2003年6月の総会時、会員及び関連組織に配布する。</li> <li>2. 専門誌への連載 機械関係の専門雑誌へ、青年技術士懇談会の会員が中心となって連載を続けてきているが、これを引き継ぐ形で今後青年技術士懇談会として組織的に取り組んでいく予定である。</li> <li>3. 一般書籍の出版 青年技術士懇談会の特徴を活かし、幅広い読者層を対象とした、技術関連の啓蒙や若手技術者のためのキャリアアップなどをテーマとした書籍の出版を目指して、企画を進める予定である。</li> </ol>
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出版を目的とした活動グループをキックオフできた。</li> <li>2. 青年技術士懇談会としてはじめての年鑑の制作に取り組むことができた。</li> <li>3. 第1回公開シンポジウムの概要集制作</li> </ol>
今後の予定・展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門誌への連載を目標にした企画作成及び執筆体制の整備</li> <li>2. 一般書籍出版を目標にした企画作成</li> </ol>
その他	専門誌の連載や一般書籍出版については、青年技術士懇談会の多くの会員のみさまに是非協力いただきたい。

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	組織・規約検討グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○時合健生，手塚史展，野村貢，正司康雅，松浦勝博，近江麻衣子，山田英樹，北尾由之，石井聡
グループの目的・活動の趣旨	中長期的に若手技術士及び修習技術者が増加していく中で， ①今後，ボリュームゾーンとなる若手技術者が積極的且つポテンシャルを発揮できる活動の場～外に開かれた多様な活動を発揮できる組織・体制を関連技術士会部署と検討する。 ②現状の会活動実態と将来を見据えた活動に対応した会規約を検討し，実状に即した会運営の効率化並びに透明化を実施する。
今期の活動内容	<p><b>(1)2002年12月6日：活動中間報告会</b> →本グループの設置を時合委員長，野村・手塚副委員長から提案・諮問があり，委員・委員補佐参加の中間報告会にて討議され，設置が了承された。</p> <p><b>(2)2003年12月～2003年1月中旬：グループメンバーの募集</b> →本グループの設立発起人（委員長と副委員長）が，委員と委員補佐からメンバーの選出を行なった。前委員長（北尾氏）・元委員長（石井氏）にも協力員として本グループに参加し検討体制を整備した。また，技術士会担当部署（総務部）にもグループ設立趣旨を説明し，サポートを得て検討を実施していくことにした。</p> <p><b>(3)2003年1月17日：第1回検討会兼キックオフの開催</b> →第1回検討会を実施し，今後の組織検討案とその組織に対応した規約を検討した。 ①3案（横断部会型，常設委員会型，実行委員会型）が検討された。②規約改訂は，組織案が決定した段階で検討することにした。 ③政策委員会の組織検討小委員会メンバーから助言を貰うことにした。</p> <p><b>(4)2003年2～3月：組織検討委員会メンバーの助言を受けての対応</b> →組織検討委員会メンバーと会合を持ち，上記3案の組織案への助言を下に今後の組織と規約検討についてグループ内で検討した。 ①期限付きの解散がない特別実行委員会型への移行が現実的であり，その方向性で組織を検討する。 ②組織検討は，理事会承認事項並びに手続に最低半年は必要であり，担当部署を通じ検討を進めていく。 ③新組織への移行並びにその実現可否は現時点で不透明であり，規約の改訂は，現状の調査委員会規約を実態に即して改訂し6月総会に諮問する。</p>
活動成果	<p>新試験制度並びに新法の施行後の若手技術者（技術士，修習技術者）の増大に対応した適切且つ外に開かれた技術者社会に貢献する青年技術士懇談会活動の今後の方向性や”あり方”について，会の意見を収集し，纏めることができた。</p> <p>同時に関係部署との連携～実現に向けての協力関係の第一歩を構築することができた。</p>
今後の予定・展開	<p>新たな組織検討案を関連部署のサポートを得て，H15年度上期に提案する。</p> <p>6月総会に現状組織での実態に即した規約改訂を本グループで検討し諮問する。</p>
その他	特になし。

青年技術士懇談会 サブグループ活動報告

サブグループ名	支部交流グループ(兼支部連絡窓口)
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○桜井裕一，戸谷次延，時合健生，野村貢，手塚史展，佐藤大樹
グループの目的・活動の趣旨	北海道，東北，北陸，中部，関西，中・四国，九州の各支部の若手技術者・修習技術者との合同例会・合同特別企画開催並びに行事連絡等をスムーズ且つ活発に実施することを目的としたグループである。
今期の活動内容	<p>(1) 平成 14 年 12 月，各支部へ当グループの発足並びに今後の活動に対する協力を要請。</p> <p>(2)平成 15 年 5 月，第 1 回公開シンポジウムへの参加要請 東北，北陸，中部支部より 4 名参加</p> <p>(3)平成 15 年 5 月，第 1 回支部交流会開催 議題 ①各委員並びにグループリーダーの紹介及び活動内容の紹介 ②各支部の活動内容の紹介 ③今後の相互交流活動の方向性についての意見交換 ④懇親会</p>
活動成果	<p>発足してまだ半年ではあるが 5 月に第 1 回支部交流会を開催できたことは大きな成果である。</p> <p>参加支部は東北，北陸，中部と 7 支部中 3 支部ではあったが，今後の各支部間の相互交流の重要性が認知されたことは今後の活動に大きなステップとなった。</p> <p>会議では，今後どのような支部交流ができるかを各支部が持ち帰り，意見を取りまとめた後，当グループに報告されることが決議された。 (6 月中に報告)</p>
今後の予定・展開	<p>今後の課題を以下に記述する。</p> <p>(1)活動の拡大 3 支部から全支部へ (2)持続的な交流への定着 (3)合同企画の立案実施 (4)他グループへの活動の展開 例) 国際交流グループ，出版企画グループ，etc (5)人材ネットワークの構築</p>
その他	

## 収集技術者エッセイ

青年技術士懇談会 修習技術者エッセイ

### 青年技術士懇談会活動に委員補佐として参加した1年間

名前 山田 英樹

技術士補（建設部門）

平成14年6月から青年技術士懇談会の活動に委員補佐として参加しています。

青年技術士懇談会の活動に初めて参加したのは、平成11年度（平成11年12月）に第一次試験の建設部門に合格した後、翌年2月の技術士補（修習技術者）を対象にした2月例会に参加したのが初めて。その後、毎年2月例会には参加していましたが、ほかに毎月行われる例会には委員補佐となる昨年までほとんど参加していませんでした。

しかし、今年（平成14年度）は委員補佐として、例会やWG（ワーキンググループ）の活動に運営側としてたずさわり、活動を通して委員や他の委員補佐の方々を始め、各回の例会参加者の方々など、多くの人と知り合う機会が得られたと共に、貴重な経験を積むことができました。

実際、平成15年5月17日（土）に開催された青技懇共催による第1回シンポジウム（江崎玲於奈先生の講演）などは、滅多にない機会であるにもかかわらず、委員補佐として手伝っていなければ、参加したかも怪しいものです。

私が主に参加したのは、担当として修習支援活動及び1月・2月の例会幹事、WGは規約改定WG、国際WGがメインです。中でも最も時間を割いたのは2月例会ですが、修習技術者のための例会という主旨のもと、委員補佐全員が手分けして段取りを行い、当日も無事終了させることができました。同例会では、過去数回参加していた中で私が感じていた不満点も多少は改めることができましたような気がします。

青技懇活動はボランティアですが、委員、委員補佐の限られた人数と私生活の中の限られた時間という厳しい条件のもとで、相互に連絡をとりながら調整、段取りを進めていかなければなりません。個人的にはどうしても土日などの余裕を持てる時間まで作業を保留したくなるのですが、この環境に置かれて改めて、余暇を効率的に利用するために気を付けて生活する必要があることを実感しました。当たり前のことですが、これがなかなか出来ません。

技術士補、修習技術者というと、どうしても技術士を取得するまでの経過期間というように考えてしまい、部会等の技術士会関連行事に出るのもためらってしまいがちですが、積極的に参加していくことでとても身になる1年間を過ごすことができました。当然、全てが良いわけではなく、参加した行事や自らの行動について反省することも多いのですが、何もしないよりは比べ物にならないほど得るものがあったと感じています。



## 青年技術士懇談会と自分

伊藤 英忠

技術士補（応用理学部門）

「青年技術士懇談会」とは？今年2月頃、香港技術士会から日本技術士会への来賓用PR紙を作成していたとき、そもそも「青技懇」とはどのような経緯を経て現在に至っているのか。去年、委員補佐になって以来全く考えもせず、今までやってきていた自分はまさかモグリではないだろうか？誰に聞こう、いやー困ったと思い、藁をもつかむ気持ちで「日本技術士会 創立五十周年記念誌」を開く。31 ページ目、あっ、あったあった助かった！…PR紙へは間に合いましたが、記念誌をよく読むと、当時の合言葉として「他人の三倍働いて倍の収入を得よう。せめて総理大臣並の報酬を獲得しようじゃないか」とある。今の自分が三倍働いたら倒れちゃいます（2日に一度徹夜の繰り返しが精一杯です）。また、総理大臣をターゲットにしているところ、良い意味での大言壮語と感じます。

私は平成14年、委員補佐になりました。それまで月刊「技術士」はとっていたのですが、青年技術士懇談会のページはおろか、まともに読まない月もあって本棚の肥やしをせっせと作っていた不屈き者でした。毎月の担当決めて12月の忘年会になったときは「ラッキー！とにかく分かりやすいイベントの担当でよかったよかった」と内心ホッとしたものですが、この当時は国際WGのおまけがついてくるとは夢にも思わなかったです。

毎月の「例会」を通じて、仕事とは違う方々と知り合えたのはもちろんのこと、普段は別々の場にいるのに例会の企画をうまく運営していく方向で協力し合えたといったことは、なかなか体験できないことと思っています。そこで議論される意見は全くのびのびとしたもので、仕事の上で利害や諸々の思惑などを飛び越えた、いわばピュア（純粋）なサロンといった雰囲気がありました。特に2月例会はテーマ・会場・懇親会等々、とても一人のアイデア・バイタリティーじゃできないと思ったことも委員補佐同士で意見を出し合いまとめ上げられたことは素晴らしいことだと思っています。この一部でも体験する事ができて自分にとっては貴重な財産になりました。また、各例会では、普段ではなかなか利用できないと思われる施設、講師を招待してのイベント…、これらもかけがえのない血肉となったことと感じています。

果たして将来の自分に諸先輩のやってこられたことができるのだろうか？これまでの期間、実をいうと例会などでは圧倒されっぱなしで話しについていけなかったことも度々ありました。去年初めて二次試験を受けましたが論文が十分に書けず、挙げ句の果てには今年はボンヤリしてしまっただけ願書を出し損ねたという、もう成長したのかしてないのか、はたまた青技懇の例会を通じてこれまでとは違う未曾有の刺激を吸収しすぎたが故に便秘状態に陥ってしまい試験で花開かなかったのか、この先の不安の種を発見したことも委員補佐をしてきたおかげ(!?)です。

青年技術士懇談会は45歳までの若手技術者の集まりです。他の人には「45歳でセイネ〜ン？」なんて言われることもあります。しかし、例会等が集まって来られる方々はなんだか若く見えます。ついこの前まで学舎にいたのではないだろうか？そんな感じさえ漂わせているせいか目も輝いているし、「もっと何かできるのではないだろうか」という希望めいたものを秘めている気がします。今の世の中は混沌としており、どんな方向へ突き進むのやらドキドキ・ハラハラしていますが、青技懇の溢れんばかりのエネルギーで魅力的なイベントを通してドキドキ・ワクワクが多く生まれることを願っています。

2003.06.09

## 青年技術士懇談会・委員補佐の経験

原田 篤史

技術士補（生物工学部門）

私が青年技術士懇談会の業務に関わる事になったきっかけは、生物工学部会の酒井部会長からの何気ない「原田君、青技懇やってみない？」という問いかけに、軽い気持ちでOKしてしまった(?) ことからでした。

実際に青技懇に参加させていただいたのは、6月総会の前段取り打合せからですが、青技懇の業務内容が思った以上にボリュームがあるので驚いてしまいました。その時は、軽い気持ちでOKしたことを少しだけ後悔しましたが、青技懇メンバーの皆さんがやる気のある方ばかりで、打合せも活発に行われており、その雰囲気にも飲まれてしまったのか、気が付いたら自ら出席管理業務の担当に立候補していました。立候補したことまでは良かったのですが、具体的な業務内容としてどのように進めていけばよいか、まったく分かりませんでした。しかし、旧担当者の益子さんを始め、様々な方にご助言いただきまして、なんとか業務をこなしております。特に、昨年度末は佐賀への長期出張が入ってしまい、様々な方にご迷惑をかけてしまいました。この場を借りてお詫びします。

青技懇の業務を通じて得ることもたくさんありました。特に出席管理という業務上、毎回例会に参加させていただくことが多く、講演やディスカッションを通して、様々なことを学ばしてもらいました。技術者としての心構えはもちろんのこと、プレゼンテーションの技法や要領、ディスカッションにおけるコミュニケーション方法など、今の自分には足りていないことばかりで、会社の業務をこなしているだけでは到底得られない経験を得ることが出来ました。また、例会には様々な分野の技術者が参加するので、自分のまったく知らない世界を知ると共に人脈が広がりました。特に例会終了後の2次会の席では、皆さんお酒が入っているためか饒舌になり、プロジェクトXにでてきそうな色々な苦労話を聞くことが出来るので、自分もこんな仕事がしたい！と闘志が沸いてきます。

良い経験が得られる反面、青技懇に関する業務は、通常の会社業務の合間に行っているのですが、時期によっては非常に大変になるときもあります。私の会社は建設関係であるので、年度末は猫の手も借りたいくらいの忙しさとなり、正直なところ青技懇の業務がほとんど出来ませんでした。今年度はメンバーの方々のご協力により、なんとか乗り越えることが出来ましたが、今後とも同様なことがおきる可能性があると思われるので、業務の効率化を図りたいと思っています。

青技懇の業務を通じて私が一番大きく変わったのは、時間を効率よく使うように心がけるようになったことです。今までは、会社の業務でも業務効率が悪く、休日出勤や深夜残業を行っていましたが、青技懇業務を行うようになって、業務効率を上げて青技懇に参加できるようにしました。時間というものを作ろうと思えば作れるものだと実感しています。(まだ、深夜残業は多いのですが。。) また、他の委員、委員補佐の方々の業務方法を見ていると、テキパキとやられる方が多いので、時間の使い方が上手いのだろうと感心しています。早く自分も効率よく時間を作っていきたいと思っています。

青技懇を通じて様々な経験をさせていただきましたが、技術者としてもビジネスマンとしてもまだまだ未熟であることを痛感しています。今後は、技術とビジネスの両面の力をつけるために、青技懇業務を通じて人脈を広げ、自己啓発を続けていきたいと思っています。

## 委員・委員補佐紹介

第22A期において委員及び委員補佐を務めさせていただいたメンバーを紹介いたします。

### 【委員長・副委員長・委員】－11名

委員長：時合健生（化学）

副委員長：野村貢（総合技術監理，建設）手塚史展（総合技術監理，衛生工学）

委員：秋好忍（機械），笠井睦（総合技術監理，環境，建設），久保康弘（生物工学）

桜井裕一（建設），佐藤嘉憲（応用理学），正司康雅（総合技術監理，機械）

戸谷次延（電気・電子），松浦勝博（総合技術監理，情報工学，電気・電子）

### 【委員補佐；技術士補】－9名

伊藤英忠（応用理学），近江麻衣子（環境），井上讓（建設），佐々木政幸（建設），

佐藤大樹（環境），園家研一郎（航空・宇宙），原田篤史（生物工学），益子理（環境），

山田英樹（建設）

## <委員>

\*\*\*\*\*

**氏名： 時合健生(ときあい たけお)**

技術部門：化学（セラミックス及び無機化学薬品）

役割：委員長（総括），特別企画，支部・交流，出版企画と組織・規約改訂の各グループに所属

勤務先等：出光興産（株）潤滑油部 営業研究所 設備油グループ

専門技術：セラミックス製造及び評価技術，セラミックス半導体物性・製造，冷凍機用の潤滑油合成

趣味・特技：野球・テニス，食べ放題の食べ歩き

メッセージ：

青年技術士懇談会では「開かれた，会員のための，サービス活動」のスローガンのもとに，現状の活動を発展していきたいと考えています。

また，新たな活動には技術士・修習技術者はもとより他の関係者も参集し技術士会事務局のサポートを得て，技術士会事業の発展に貢献していく所存です。何事にもチャレンジ精神で臨んでいます。

長崎は島原出身の九州男児ですが，妻・家族には弱い日々を過ごしています。何とか都合をつけて会員諸氏の技術士会活動に貢献していきたいと思っています。

休日は子供とのサッカーや野球等で汗をかいて健康維持，早朝は本執筆や各種資格取得の勉強と24時間フルコンビニ活動の生活をおくっていますので，公私共に各種の活動への参加にはお声をかけて下さい。チャレンジ精神で楽しく活動したいと思っています。



\*\*\*\*\*

**氏名： 野村 貢**

技術部門：総合技術監理部門，建設部門

役割：副委員長，会計

勤務先等：株式会社 建設技術研究所 東京本社

専門技術：トンネル，地下構造物，岩盤

趣味・特技：トンネル掘り

メッセージ：いろいろ渡り歩いた結果，建設コンサルタントでトンネルをやっています。人はなぜ地下に住みたがるのか？というのが目下のテーマです。鉱山や炭鉱の好きな人が好き。



<委員>

\*\*\*\*\*

氏名:手塚史展(てづか・ふみのぶ)

技術部門:衛生工学

役割:副委員長(副)

勤務先等:(株)東芝 研究開発センター 機械・システムラボラトリー

専門技術:環境・リサイクル技術に関するプロセス開発

趣味・特技:青技懇の活動?!

メッセージ:宜しくお願いします。

\*\*\*\*\*

氏名: 正司 康雅 (しょうじ やすまさ)

技術部門:機械, 総合技術監理

役割:インターネット, ニュースリスト管理

勤務先等: ABAQUS Inc.

専門技術:有限要素法を使った構造解析, 機械一般

趣味・特技:サイクリング, ボーイスカウト活動(ベンチャー隊の隊長です)

メッセージ:青技懇では古参の部類に入ってしまいました。もうすぐ会員資格がなくなってしまいます。青技懇での委員(幹事)は2回目で、通算4年の活動をさせていただいております。2回目の今回は時合委員長のもと、活動が非常に活発になり、大変喜ばしく思っています。国際交流、江崎先生を迎えてのシンポジウム等が成功するように微力ながらお手伝いをさせていただいております。いずれも成功を期して頑張りましょう。

<委員>

\*\*\*\*\*

氏名: 笠井 睦 ♂

技術部門: 環境部門・建設部門・総合技術管理部門

役割: 修習技術者支援グループ兼連絡員

勤務先等: パシフィックコンサルタンツ株式会社 環境部

専門技術: 環境保全計画

趣味・特技: 釣り・テニス・ダイビング・ボート, 特技: 子守

メッセージ:

青年技術士懇談会の「青年」と「懇談会」のどちらにも違和感を覚えつつ、結局、いつもの「まあいいか」の精神が勝ってそのまま参加させていただいております。

修習技術者支援グループに入ったこともあって、修習技術者支援実行委員会の方にも出席させていただいており、すばらしい先輩技術者の方々と接する機会が持てました。青技懇も支援実行委員会も部門横断的な集まりであり、多様な技術者の方々とネットワークが出来るので、いずれ技術の幅を広げられるようにつながられればよいなと思っています。自然環境の世界でも「多様性が豊かなこと」はとても大切なことだと言われていますね。

今回はお馬鹿なことを書くのを少し控えました。



\*\*\*\*\*

氏名: 佐藤嘉憲

技術部門: 応用理学部門

役割: 修習技術士支援グループならびに印刷原稿当番

勤務先等: 株式会社 DJK リサーチセンター

専門技術: DTP, グラフィックデザイン, 熱測定, 熱分析, レオロジー, 高分子物性, カウンセリング (来談者中心療法, 精神分析療法), 心理分析。などなど

趣味・特技: 社交ダンス。Macintosh。Bass 持ってます。空手やりました。一人旅 (松尾芭蕉よりも早く歩きました)。料理うまいです。家事一般 (出産以外はなんでもできますがとくに炊事洗濯掃除はお任せ下さい)。などなど。

メッセージ: 産業カウンセラーでもあります。博士 (工学) でもあります。それでいて技術士という人間はこの世に私だけだと思っていますが、いかがでしょう。

<委員>

\*\*\*\*\*

氏名:秋好 忍(あきよし しのぶ)

技術部門:機械(機械設備)

役割:広報, 試験, 出版 WG

勤務先等:草野産業株式会社 鋳造営業部 技術設備 G 課長



専門技術:機械設備の配置計画(自動化設備, 鋳造工場の配置計画)

趣味・特技:犬の散歩と読書

メッセージ:

イタリア女性と工場をバックに記念撮影。(2003.3. 21 イタリアにて) これってメッセージかな?

\*\*\*\*\*

氏名:桜井 裕一

技術部門:建設部門

役割:支部交流グループ(責任者), 技術士試験業務グループ(責任者)

国際交流グループ, 出版企画グループ, 出席管理

勤務先等:株式会社 石勝エクステリア

造園緑化事業部 担当部長

専門技術:環境緑化技術(都市緑化, 屋上緑化, 人工地盤緑化, etc)

趣味・特技:音楽鑑賞(特に Jazz), スポーツ(テニス, ゴルフ, スノボーetc), アウトドア  
男の料理

メッセージ:緑の好きな方, 声をかけて下さい。

趣味のあう方, 声をかけて下さい。

酒の好きな方, 声をかけて下さい。

## <委員>

\*\*\*\*\*

**氏名：松浦 勝博**

技術部門：情報工学部門，電気・電子部門，総合技術監理部門

役割：出版企画グループ（責任者），広報グループ

勤務先等：日本電技株式会社

事業本部 技術部 開発課 担当課長



専門技術：計測・制御に関するシステム開発，ソフトウェア開発

趣味・特技：読書（推理小説，歴史小説など），スポーツ（テニス，ボーリング）

メッセージ：

委員になってから，早いもので1年が経ちました。この1年間，委員としていろいろ青技懇の活動をお手伝いさせていただきましたが，公開シンポジウムをはじめとして，これまで経験できなかった様々な行事に参画でき，とっても有益であったと思います。

私，幹事とか係りの人になるのって嫌いじゃないのですね。以前，町内の自治会の役員を1年間やったことがあるのですが，年輩の役員の方々に混じって，お祭りやら盆踊りやらの企画や準備のお手伝いをしたり，一緒に温泉に行ったりと... 飲んでばかりいたというのが実状だったけど，結構楽しめましたね。お祭りでも技術士会でも同じですが，参加者として出席するのはどこか受動的ですが，幹事や係りの人になるというのは，その行事や活動に対して主体性が持てるということになるのでしょうか。つまり，主役になったような気分になり（かなり主観的ですが），同じ行事に参加しても2倍は楽しめる気がします。

この年鑑をお読みいただいている若い技術士・技術士補のみなさま，是非青技懇の委員・委員補佐・協力員として積極的に参加してみてください。きっと新しい発見があると思います。



＜委員補佐＞

\*\*\*\*\*

氏名： 佐藤 大樹(さとう たいき)  
技術部門： 環境  
役割： 出席管理 会計  
勤務先等： 慶應義塾大学大学院理工学研究科  
専門技術： 数値流体力学， 建築・都市とヒートアイランド現象について勉強中  
趣味・特技： 逆立ち， ローラーブレード， 散歩  
メッセージ： 青年技術士懇談会内では， 皆さんにおんぶにだっこですが， 結構楽しんでいます。  
最近， 技術士会の各種例会の参加者に， 学生が増えてきてうれしいです。

\*\*\*\*\*

氏名： 近江麻衣子  
技術部門：環境部門（補）  
役割：会計及び修習  
勤務先等：(株)環境指標生物  
専門技術：生物調査（植物）  
趣味・特技：ハイキング， 読書（乱読）  
メッセージ：  
今年度もあと残り2ヶ月程となりました。良い活動をしていきましょう！

### <委員補佐>

\*\*\*\*\*

**氏名：伊藤 英忠**

技術部門： 応用理学部門

役割： 修習技術者支援グループ，国際交流グループ

勤務先等： 株式会社ダイエーコンサルタンツ 神奈川支店 環境技術部

専門技術： 地盤調査一般，環境(土壌汚染)関連

趣味・特技： スキー，史跡・資料館巡り(いつかはこの分野の仕事がしたいと思っています)

メッセージ： 学生時代，先輩から「技術士補ってというのがあるよ」と聞いたとき何も感じず，リーチ・ポン・ロンといった体たらくの私だったのですが，平成12年に一次試験合格後，修習セミナー参加・青年技術士懇談会委員補佐をとおして普段では滅多にない知り合いの機会を得ることができて，振り返ると比較的密度の濃かった期間を過ごしてきていると感じています。

社会人になって数年経ちますが，体力は低下する一方です。フィールド調査の時ゼイゼイしながら「アー，以前のような馬力が欲しいよう！」といった今日この頃です。青技懇は45歳まで“青年”らしいので安心しています。



(200X年社内にて)

\*\*\*\*\*

**氏名：山田英樹**

技術部門：建設／水道

役割：修習支援

勤務先等：三浦市役所

専門技術：下水道

趣味・特技：海外旅行，スキー，弓道ほか

メッセージ：技術士補として修行中です。多くの方からお世話になり，また学ばせていただくために何事も積極的に活動していきたいと思ひます。

### <委員補佐>

\*\*\*\*\*

**氏名:佐々木 政幸**

技術部門：建設部門

役割：修習技術者，インターネット

勤務先等：株式会社横河技術情報 ソリューションサービス部

専門技術：有限要素解析，構造力学

趣味・特技：野菜作り，ボーイスカウト（千葉21団ビーバー隊副長）

メッセージ：

平成14年，時合委員長のお誘いで委員補佐となりました。自宅が都心から離れているため，頻繁に協力活動できないのですが自己研鑽のためにも委員補佐活動に勤めます。趣味ではボーイスカウトにはまっています。小学生2年生以下の子供たちの世話がメインですが，子供たちを成長スピードには驚きます。私自身も成長し続けたいですね。



\*\*\*\*\*

**氏名:原田篤史**

技術部門：生物工学部門

役割：出席管理

勤務先等：カジマアクアテック株式会社

専門技術：排水処理設備に関する設計・施工・維持管理業務

上記生物処理の自動制御装置の開発

排水処理施設のネットワーク・データベースの構築

臭気環境コンサルティング

趣味・特技：アウトドア一般，サイクリング，映画鑑賞

メッセージ：部門は生物工学ですが，仕事は水処理，情報工学，臭気対策など様々なことをやっています。

チョットでも新しいことがあると自分から首を突っ込んでしまう性格なので，様々な部門の方との交流で更なる興味の中を広げたいです。



<委員>

\*\*\*\*\*

氏名:益子 理

技術部門:環境部門 技術士補

役割:

勤務先等:国土環境株式会社

専門技術:野生動物調査, 解析

趣味・特技:バードウォッチング

メッセージ:

社会人2年目も, バリバリがんばるぞい。

## 編集後記

今年は江戸開府 400 年の節目にあたる。かの有名な関ヶ原の合戦が 1600 年（これは覚えやすかった）であったので、ん～、そんなもんだな。それでもって、東京各地では記念行事やら展示やらが行われている。私の勤務先の両国にも江戸東京博物館があり、「江戸開府 400 年事業」として特別展示などが行われている。両国は、この博物館だけではなく、江戸時代の香りがあちらこちらに残っている町である。実はこのネタを使ってある雑誌に投稿する予定だったのだが、なんと！その雑誌が休刊となってしまい、ネタの落しどころがなくなってしまったのだ。しかたがないので、ちょっとここでその「両国歴史探訪」を紹介してしましましょう。

そもそも両国という地名は、武蔵国と下総国を境にする隅田川にかかった橋を両国橋と名付けたことがはじまりとされてしており、江戸時代より相撲の興業が行われていた町である。今でも両国駅西口をおりと北側すぐに国技館があり、場所が開いているときはちょうど出勤時間帯にテケテン、テケテン・・・と太鼓の音が聞こえてくるし、べしっ、べしっ、と相撲取りの草履の音が通りに響く。

さて、その国技館の東側に建つのが江戸東京博物館で、東京都がかなり気合いを入れて建設した博物館である。そのわりにはあまりぱっとしないところではあるが、江戸時代の町並みをミニチュアの模型にしたものがメインの展示物である。右の写真は当時の日本橋界隈の町の様子と、越後屋・大黒屋といった店の中で働く人々の様子を模型にしたものである。人々の動きや顔の表情まで、細かく再現されており、江戸の町の雰囲気がひしひしと伝わってくる。

国技館や博物館とは総武線を挟んで反対側の南の方へ足を延ばすと、国道 14 号線沿いに回向院（えこういん）というお寺がある。ここは 1657 年（明暦 3 年）の明暦の大火で犠牲になった人々を弔うために建立されたお寺であり、義賊として有名なあの鼠小僧次郎吉のお墓もある。

ここから東側（国道を千葉方面へ）へ 200m ほど行くと、忠臣蔵で有名な「吉良上野介義央」の屋敷跡がある。当時の屋敷は約 8,400 平方メートルという広さであったらしいので、おそらくこの辺り一帯はすべて吉良邸であったのであろう。元禄 15 年、ここへ大石内蔵助以下四十七士が討ち入ったわけである。雪降る 12 月 14 日の晩に四十七士がこのあたりを歩き、見事本懐を遂げ勝ち鬨を上げた様子を思い浮かべると、なにやら感慨深いものがある。その吉良邸も今では下の写真のように、碑やわずかな石壁、井戸などがひっそりと残っているだけである。



どこかのキャッチフレーズにあったが、私たちは江戸の未来に住んでいる。いかに技術や経済が発展しても、江戸の昔から続く文化や人々の魂といったものを大切にしていかなければ・・・そんな声が時を越えて聞こえてくる。

いや～、そんなわけでまったく編集後記にならなかったな～。まあ、ともかく委員・委員補佐・協力員のみなさまの御協力のおかげで、何とか年鑑を完成させることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。（出版企画WG 松浦 勝博）

